



北広島町
農事組合法人うづつき
代表 小川 和夫さん (73歳)

重なる減収でも安心

水稻と野菜の二本立てで営農しています。8年前からは、以前からやってみたかったキャベツの栽培を始め、野菜栽培にも力を入れてきました。

野菜は野菜価格安定制度の指定外の市場が主な出荷先のため、利用できませんでした。しかし、収入保険は出荷先にかかわらず加入でき、販売収入が補償されるのが魅力です。農作物共済で一筆方式がなくなることも加入の後押しになりました。

2021年、22年に、獣害や病害、コロナ禍の影響による米の価格低下など、収入減少となる要因が重なったときは、補償があったことで安心できました。

数年前から、後継者育成のために技術を継承し栽培管理を任せていますが、近年の異常気象で、今まで経験したことのない天候が多く発生し、平年どおりにいかない年が増えています。

収入保険の保険料が安くなればという思いもありますが、思いがけない収入減少に対応できる収入保険は必要だと考えています。

▷水稻約36畝、野菜約4.4畝 (キャベツ、トマトなど)